

作り手の
メッセージ

水路が育む米づくり

私達が取り組んでいる「鳴子の米プロジェクト」の活動も、応援していただく多くの皆さんに支えられ、9年目に入りました。山里で雪解け水に育まれる「ゆきむすび」、今年も実りの秋へ向けてすくすくと成長しています。

この春、代かきが間近にせまったある日、鬼首の農家より電話がありました。久瀬という集落で米づくりをしているその農家は、今年は積雪が多かったせいか、水路の修繕



鬼首久瀬の取水地点

が大変な状況なので、一度現地を見て対応を相談したいという連絡でした。

ある日の早朝、受益する皆さんと現地へ向かいました。数キロにも及ぶその水路は、取水する場所がぎりぎりたつた高い「がけ」を横断するようになっており、歩いて渡るのも大変危険な場所

で、崩壊している箇所もありました。

それでも眼下の沢水は、雪解けによつて水量も多く勢いよく流れていました。私はすごい場所から水を引いていることに大変驚きました。これまで使用していたパイプ等も損傷しており、修繕には多くの労力と資金が必要なことを実感したのです。

この水路は、戦後、集落の皆さんの米づくりにかけて熱い思いで開かれたと聞き、とても感動いたしました。所々にこれまでの苦労がしのば

れるような箇所もあり、営々と続けられてきた米づくりには、毎年の水路にかける農家の皆さんの、強い絆と取組みがあったのです。

幸い復旧のための資材を一部行政の方からも支援していただくことになり、共同作業によつて今年の春も無事田んぼに水が入り、代かきが行われ、田植えも終り、その水によつて「ゆきむすび」が育っています。

「おかげ様で、水がかかったよ！」元気な声でその農家より連絡がありました。私の耳元にその余韻がとても心地よく残っています。

「ゆきむすび」が育つ山間地の田んぼにはそれぞれの水路があり、その水路にかける農家のそれぞれの物語があつたのです。これまで忘れていた恵みの水が田んぼに入る用水路のそれぞれの物語とその風景、食べ手の皆さんにこんなことも語りつぎながら、おいしい「ゆきむすび」をさらに味わってもらえればと思うこの頃です。

私は日々の活動の源「ごはん」を、水路が果す大きな力に感謝しながら今日も食べています。そして、いつの日も、どんな時も「まなざしは未来へ」。

〈作り手部長 後藤 錦信〉

鳴子の米プロジェクト主催『にっぽん・食の哲学塾』開講!!

これまで日本に食の哲学は、存在したのだろうか？安ければいい、ブランド商品なら買う。生きるための大切な食べ物が、このように扱われ、農家が減り、地域の農が荒れていく。次世代の子どもたちに、日本の食、農をつなぐことはできるのか？地域、故郷を残せるのか？全国の農山漁村に希望をもたせ、鳴子の米プロジェクトの総合プロデューサーも務めた、民俗研究家 結城登美雄先生を塾長に迎え、ひとりひとりが考え、行動できるよう、みんなで日本の食と農、地域を考える「にっぽん・食の哲学塾」を開講しました。26年度の内容も決まり次第ご案内しますので、ぜひ、ご参加ください。



●【第1回東京編 ～日本の食の現在と未来、今自分がやれることは？～】

(日時：平成25年9月28日、会場：東京・新丸の内ビル7階「mus mus」他) 第1部は、結城登美雄先生による「日本の食の現在と未来、今自分がやれることは？」と題した講演、第2部は『むすびや×mus mus』の交流会で、むすびやスタッフの握るゆきむすびや東北の食材を使った「mus mus」による料理を囲み、交流を深めました。

●【第2回鳴子中学校編 ～みんなで考えよう 鳴子の食と農の大切さ～】

(日時：平成25年11月27日、会場：大崎市立鳴子中学校体育館) 当日は、鳴子地域の幼稚園・保育園・小中学校全ての児童生徒が給食でゆきむすびのごはんを食べ、その後、各小学校の5・6年生と鳴子中学校生徒、教職員が、結城登美雄先生による「みんなで考えよう 鳴子の食と農の大切さ」と題した食育講演を聞き、参加者全員が感想を書いてくれました。

●【第3回鳴子温泉郷編 ～つながろう 食・農・温泉 観光の未来へ～】

(日時：平成25年12月15日、会場：宮城県大崎市鳴子公民館・大沼旅館山荘「母里乃館」) 第1部のフォーラムでは、『作り手と食べ手の力で創る、食と農の未来』と題し、コーディネーターとして結城登美雄先生、パネラーとして赤坂重箱代表取締役会長・大谷喜一郎氏、株式会社イワイ代表取締役社長・岩井健次氏、鳴子の米プロジェクト理事長・上野健夫氏による「たべもの談義」が行われました。第2部では、大分県・由布院「玉の湯」代表取締役社長・桑野和泉氏の講演と、『食・農・温泉 観光の未来』と題し、結城登美雄先生と桑野和泉氏による対談が行われました。その後、地元むすびやスタッフによる鳴子の米ゆきむすびや地元食材を使った料理を囲み、交流を深めました。

食の哲学塾参加者からの感想意見 (一部抜粋)

- 【第1回参加者より】
 - (神奈川県・男性) 価格の安さだけにとらわれず、多少高くても必死でがんばっている一次産業従事者を助ける消費行動をしたいです。
 - (東京・女性) 食は命をつなぐ大切なもの、先生の考え、応援していきたいです。少しでも農家さんと手をつなげ、東京でできることは何か、つなげていけるものがあれば、食を通して手助けしていきたいと思います。
 - (埼玉県・女性) 就農する際に、子どもを育てることに、30代は不安を感じてしまうのではないかと。就農する人が、その地域でしっかりとライフプランをつくれるような支援も必要かと思いました。このテーマに関心のない若い人が、もっと哲学塾で学びきっかけをつくるのが重要かと。今回のように都心で行くと、若い人が友人を誘いやすいのではと思います。今回集まった方々が、1人ずつ、特に若い人を誘って集まると、より広がると思います。
- 【第2回参加者より】
 (地元川渡小・鳴子小・中山小・鬼首小の児童)
 - 自分がこれからできることは、食べものを作ってくれる人たちに感謝しながら食べること。その心を忘れなことです。
 - 米を作ってくれているおじいさん、おばあさんたちに感謝しなければいけないと思います。
 - 田んぼの仕事を何人も手伝い合って、おいしい米を作る手伝いをしたら、もっと楽に作ったりできると思うので、自分が1人だけ疲れていても、みんなで協力して作るのがいいと思います。
 - 食べ物を作ってくれる人は、とても大変で、忙しい中作って、私たちにどけてくださって、でも、収入が少ないのは、へんだなあと思いました。私の祖母のお父さんは去年なくなりましたが、米を続けてきました。私は米づくりを手伝いできるようになるため、米作りの大切さとか、これから知ってきたいです。(地元鳴子中の生徒)
 - 食べ物はあたり前にあるものだと思っていましたが、ちゃんとそれをつくってくれる人がいて、そして、数年後にはいなくなってしまうことが分かりました。自分のためにも、今まで食べ物をつくってくれていた人のためにも、自分にできることをやっていきたいです。
- 【第3回参加者より】
 - (宮城県・男性) 農業と地域づくり、食の大事さ、大きなヒントをいただきました。
 - (東京都・女性) 今は、社会全体的に食のことに向き合うという意味を、少し間違っているように感じる。結城先生の問題意識がもっと広く伝わるといいと思う。
 - (宮城県・女性) 全員参加、全員が主役の町づくりの事例に、組織内や社会全体へ応用する考え、頭の幅が少し整理できたように感じます。
 - (福島県・女性) 食が生きていく、生活していく中で大切だということが印象に残り、自分の業務の中でもやはり、「健康」と結びついているので、来年度以降、子ども達への伝え方を工夫していこうと思います。
 - (宮城県・男性) 印象に残ったことは、食べたいと思う食材を作る人達を支えること。それは、食べたいものをそれに見合った価格で買うことだと思う。
 - (東京都・男性) 農からスタートして観光分野へ目を向け始める鳴子、観光からスタートして農へのつながりに向け始める由布院、スタート地点は違っても目指す先は同じなんだということ強く感じました。

鳴子の山あいで、ていねいにていねいに育てられた「ゆきむすび」は人と人をむすぶお米です。



ゆきむすびを食べると、山にもっつらもっつら降る純白の雪を思い出します。ゆきむすびを食べると、早苗をなで吹き抜ける春風を感じます。ゆきむすびを食べると、たわわに実った黄金色の稲穂の波が心の中でゆっさらゆっさら揺れます。ゆきむすびを食べると、鳴子が恋しくなります。鳴子の温泉にどっぷりと浸かりたくなります。今年も作り手のみなさん、ゆきむすびをどうぞよろしく願っています。これからも多くの人々を、ゆきむすびがむすびつなげてくれますように。

大沼旅館 五代目湯守 大沼 伸治

みんなで集い、「食」と「農」を語り合う、新しいおむすびのお店です。



むすびや 一時休業となります

皆様、4年間むすびやをご利用いただきありがとうございました。この度、土地施設の賃貸借期間が終了となり、むすびやを一時休業することとなりました。日頃よりお越しいただき、ご利用いただいた皆様に大変ご迷惑をおかけいたします。多くの人が鳴子温泉に入りに来て、むすびやでおむすびを買って、スタッフにもたくさん話かけていただき、スタッフ一同、多くの励みとなっておりました。以前のように、鳴子温泉に来て、ゆきむすびのおむすびが食べられるよう、早い段階でむすびやを再開させたいと考えておりますので、再開の際にはご案内いたしますので、これまで同様、ご愛顧いただきますようお願いいたします。

むすびや店長 北浦ひろみ